

平成 18 年度 冬学期 農学生命科学研究科 大学院 共通科目 (演習: 1 単位)

# 「生物多様性と農業」 (科目番号 12132)

## 履修案内

経済性と効率のみの追求による農業形態の変化の中で、急速に不健全化を進めた農業生態系。その中で、社会と生態系を再生し、自然と調和のとれた人間社会を築こうとする流れは、世界的潮流である。日本でもその萌芽が見られはじめている。2005 年 11 月、ウガンダで開催された第 9 回ラムサール条約締結国会議において、世界有数のマガン越冬地である宮城県「燕栗沼・周辺水田」が条約登録湿地となった。「水田」を明確に湿地として位置づけ、保全対象としたのは、世界にも類をみない画期的事例である。また同年 9 月には、兵庫県豊岡市において、農業生態系の頂点に位置する「コウノトリ」が、野生復帰に向けて放鳥された。

これらの取組みの中核を担うのが、生物多様性の保全と矛盾しない新しい農業システムの構築である。健全な生態系・人間社会の基盤構築に向けたこれらの取組みには、農家・行政・産業・研究者など、さまざまな主体の協働が不可欠である。各地の先進的な事例をご報告いただき、その後、学生を交えたディスカッションを行いたい。

日時: 11 月 25 日 (土) 10:00~18:00

教室: 農学部 3 号館 4 階大会議室

- ・イントロダクション 鷺谷いつみ (東京大学大学院農学生命科学研究科)
- ・基調講演「コウノトリとともに生きる ~豊岡の挑戦~」 中貝宗治 (兵庫県豊岡市長)
- ・各地で進む「人と自然の共生」に向けた取組み
  - ふゆみずたんぼ (宮城県・旧田尻町ほか) 呉地正行 (日本雁を保護する会 会長)
  - 魚のゆりかご水田プロジェクト (滋賀県・琵琶湖) 田中茂穂 (滋賀県 農林水産部)
  - 地域づくりとしての循環型農業 (新潟県・旧笹神村) 石塚美津夫 (ささかみ農業協同組合)
- ・「人と自然の共生を目指した農業」の農学的立場からの可能性
  - ふゆみずたんぼの農学的研究 伊藤豊彰 (東北大学大学院農学研究科)
  - 水田生物の多様性を活かした有機稲作の可能性 稲葉光國 (NPO 法人民間稲作研究所 代表)
- ・生物多様性保全型農業を担う様々な主体
  - 株式会社アレフの取組み 庄司昭夫 (株式会社アレフ 代表取締役)
  - 生き物調査が世界を変える 原耕造 (全農 SR 推進事務局長)
  - パルシステムの産直活動 田崎愛知郎 (パルシステム連合会)
- ・パネルディスカッション

### ◆対象

上記の授業は修士課程および博士課程の学生を対象にした農学生命科学研究科の共通科目です。研究科共通科目の単位は、研究科の規定により課程修了に必要な単位として加えることができますので、便覧等で条件を確認してください。

### ◆受講登録方法・登録受付日

各研究科 (教育部) 大学院担当にお問い合わせください。

### 問合せ先

内容に関して: 保全生態学研究室 菊池玲奈 ☎5841-8915 ✉reina@ag.wakwak.com

履修に関して: 産学官民連携室 農学部 3 号館 1 階 105A ☎5841-8882 ✉office@agc.a.u-tokyo.ac.jp

<http://www.agc.a.u-tokyo.ac.jp/>